

研究課題名	肺癌・悪性胸膜中皮腫の予後と栄養状態を示す指標との関連に関する研究
研究責任者名	原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 教授 岡田守人
研究期間	許可日 ~ 2026年3月31日
対象者	2009年1月~2021年3月の間に当院呼吸器外科を受診し、肺癌および悪性胸膜中皮腫に対し手術を受けた成人患者さん
意義・目的	<p>栄養状態が、肺癌や悪性胸膜中皮腫の予後に与える影響については、栄養状態が良い方が再発についても死亡率についても減少するということが明らかになってはいますが、栄養状態のどの指標を用いるのがよいかについてはまだ解明されていません。今回、様々な栄養指標を用いて、生存や再発の割合を比較することでどの栄養指標が最も関連が強いのか、影響指標どうしの関連はどうかを明らかにするため、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査（好中球数、リンパ球数、血小板数、アルブミン、総コレステロール、CRP）、画像検査（CT上の筋肉の面積、PET-CT上の腫瘍のSUV-max）肺癌・悪性胸膜中皮腫の病理病期、合併症の有無と内容、死亡・再発の内容です。（個人を特定可能な情報は解析に用いません。実施許可日（2021年6月25日）以降に使用します）</p>
共同研究機関	なし（外部への試料・情報の提供はありません）
試料・情報の管理責任者	広島大学 原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 教授 岡田守人
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5869 広島大学 原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 准教授 宮田義浩 広島大学 大学院医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 腫瘍外科 大学院生 上田大介</p>